

プロフィール



SSR@モントリオール(向かって右です、一応念のため)

名前	小沢 学
所属部署	東京大学
職種	助教
この研究室に入った日	2011. 1. ??
出身地	群馬県前橋市
趣味	ジョギング・ダイビング

インタビュー

Q1 現在の仕事内容を教えてください。

持続的精子形成を営む上で基盤となる「精原幹細胞」の維持機構に興味を持って研究をしています。切り口は「エピジェネティクス」と「選択的スプライシング」です。精原幹細胞自体はもちろん研究対象ですが、Nicheとして非常に重要な役割を果たしているセルトリ細胞についても色々と調べています。

Q2 研究者(教員)になったきっかけは何ですか？

恥ずかしながら、それほど確固たる意志をもって研究者になろうと思っていたわけではありません。ただ、とにかく自分が面白いと思うことをしていたかった。実験することや、出てきた結果について「なんでだ??」と考えることが好きで、そして企業に就職したくなくて、大学院に進んで、、、としているうちに今にいたっています。で、結局今辿り着いたところがなんとも心地よい、、そんな感じです。

Q3 研究者になってよかったと思うことは何ですか？

頑張って研究して面白いデータが出たとき、視界が一気に開けていく瞬間がなんともいえず気持ち良いですね。もちろん後ろを振り返れば見るも無残なネガティブデータの山があるわけですが、、、、。また、たとえ小さな事実であっても「世界中の誰も知らないことを、今オレだけが知っているんだ」というちょっとした優越感もあります。様々な人との出会いも研究者としてかけがえの無いものだと思っています。研究者には実に個性的で面白い人が沢山いて、そんな人達とあーだこーだとディスカスしている時間はまさに至福だと思っています。

Q4 今、気になっていることを教えてください。

- 精原幹細胞はどうやって自己複製と分化のバランスをとっているのか？
- セルトリ細胞はどのようにして精子形成を操っているのか？
- CRISPR/Cas9を使ったゲノム編集をもっと正確かつ効率よく出来ないか？
- Radioheadの新しいアルバムはライブでどのように演奏されるのか（Summer Sonicが楽しみです）？

Q5 研究者を目指す学生の方へのメッセージがあれば。

研究を進めるにつけ、「いのち」というものは実に絶妙に調整されているんだ、ということ改めて思い知らされます。その生命現象の一端を自分の手で、そして誰よりも先に垣間見ることができる（かも知れない）研究者というモノは、実に魅力的な職業であると自負しています。ゲノム編集やシーケンス技術の革命的向上により、今まで見ることができなかった新しいサイエンスの地平が目の前に開けています。好奇心と体力（と人並みの協調性）があれば大丈夫。是非、自信を持って進んでいって下さい。